



1. 名刺をいただき、インタビュー開始
2. 活動の様子を見せていただく
3. 笑顔で展望を語る藤井さん



私は大月が「大好き」です。

連載

夢を叶える
大月仕事人



今月の interviewer
都留高等学校
左 木下夢実さん
右 阿竹花菜女さん

大月の可能性を伝えたい！

“夢を叶える大月仕事人”の第2回目として、子育て支援活動を主宰し、その支援活動の輪を他の地域へ広げる藤井真弓さんに、都留高等学校生がインタビューしました。

「お仕事と子育て支援サークルについて教えてください。」

仕事は、ビューティーコンサルタントとして、大月では整体、エステのお店「サマーヒルズ」を営み、東京の広尾ではネイル、ヘアメイクなど、美容を総合的に取り扱ったお店を経営しています。同時に、美容室やネイルサロンなど美容に関するお店を開きたい人へのコンサルタント業もしています。しかし、今は



ふじい まゆみ
藤井 真弓さん

～プロフィール～

サマーヒルズ代表
一般社団法人メリーの会 代表理事 御太刀在住
座右の銘：人が貴方の為に何をしてくれるのかを問うのではなく、貴方が人の為に何を成すのかを問うて欲しい。
大月のお気に入りの場所：高月橋下の桂川（亡き父との思い出）

飯を作らない」「コンビニ弁当だけを与える」「パンだけを与える」といったお母さんのことを見聞きする中で、子どもの発達に一番必要な「食」を改善したいと考えて、7年前にお母さんを対象にした料理教室を開いたことが、この会を設立したきっかけです。今では、メンバーのお母さん方の積極的な希望を取り込み、さまざまな事業をしています。冬には障害者支援施設との交流会、夏休みには学習支援と食事支援などを行いました。

「海外に住んでいたと聞いたのですが。」

20歳から、アメリカで10年ほど生活していました。アメリカの人はボランティア活動をするのが当たり前で、その考えが大月に帰ってきてからのメリーの会設立の元になっているのかもしれないね。

「大月の可能性は。」

私は大月が「大好き」です。東京や神奈川での仕事が多いのですが、自分の名刺の住所欄には東京の住所ではなく、必ず大月の住所を書いています。相手に覚えていただけるという点でも大きなメリットだと考えています。大月に住んでいる人達ももっと大月の良さに目を向けるべきだと思います。特急で1時間ちょっと、寝ていけばすぐ着いてしまう距離に東京があり、都会のように窮屈でないこの大月で生活できるということは、大きなアピールポイントになります。大月をもっと「発信」していきたいです。メリーの会では、最近、八王子支部ができ、八王子のお母さん方の子育て支援事業のサポートを始めました。あと、上野原にもこの会を作っています。大月から発信して、上野原、八王子へとだんだん広まっています。大月は大切な「ふるさと」、愛すべき「ふるさと」なのだから、

「私たち若者にメッセージを。」

子ども時代に経験したことは全て今の役に立っています。自分がやってみたいと思ったこと

お父さんやお母さん方には、自分たちの子どもに「大月なんか」とか、「何も無い大月」とか悪く言わないで、いいところを見せてあげてほしいです。

は躊躇せず（ちゆうちゆう）にやってください。

誰しも悲しいことや悔しいことを経験します。私もたくさんありました。苦しい思いをしても、絶対に目標は諦めないでほしい。人生は何度もやり直せます。「絶対に夢を諦めないこと」、そして「常に夢を持っていること」、これをととても大切にしてほしいです。

チャレンジする姿勢が大事

ぱっちりとしたメイクに、ぴんと伸びた背筋、子育てをしつつ、いくつもの活動をされるパワフルさ。藤井さんは、女性の憧れの的となるようなすてきな方でした。

また、アメリカで10年も生活していたことなど、何にでも恐れずチャレンジする精神は、高校生の私たちには、まぶしく見えました。

今回の取材を通して、私たち自身も、「大月」の良さ、「ふるさと」の良さを知ることができました。また、都留高校新聞同好会としても、大月の素晴らしさを改めて認識したところで、今後も地域の魅力を内外に発信していきたいです。

